

障害者雇用の取組みについて

ぜんち共済株式会社 安藤富夫 2026 年 7 月 3 日

構成

- 01.** 会社紹介
- 02.** 障害者雇用までの取組み
- 03.** 働きやすい環境づくり
- 04.** 現状の課題
- 05.** 課題の解決に向けて

会社紹介

社名	ぜんち共済株式会社
所在地	東京都千代田区九段北3-2-5
代表者	榎本 重秋
役職員数	33名（うち障害者雇用2名）
主な事業	少額短期保険業 （障害がある方を対象とした専門の保険会社）
経営理念	すべての出逢いを尊び 心を尽くし 誰にも優しい社会を 創造します
社是	ともに助け ともに生きる



障害者雇用までの取り組み

- ・福祉作業所から実習受け入れ

2014年、近隣の作業所から数名の実習受け入れを開始（週1回）社員が持ち回りで作業をフォローしながら、パンフレットの丁合・封入・シュレッダー・ゴム印押し等を実施。

- ・特別支援学校から実習受け入れ

作業所の実習と並行して、近隣の特別支援学校（高等部2年生を対象）の実習を受け入れ。各種事務作業を通じた就業実習に協力。

- ・実習受け入れから直接雇用へ

実習受け入れを通じ、障害者雇用の社内理解が高まったところで直接雇用へ。2016年、東京しごと財団の紹介を通じて、初めて1名の雇用が叶った。

- ・現在、社員2名を雇用

デジタル化の進展に伴い、スキャニングやOCR（文字読み取り）によるデータの読み取りなど進化を遂げる。業務の切り出しや業務の手順を通じて業務効率化に挑戦中。



障害者雇用までの取組み

障害者雇用をはじめるきっかけは？

- ・創業時の事業計画書（人事管理）に明記

【抜粋】

保険会社の勤務経験のない人でも意欲があり、当社の使命に共感してくれる人材であれば年齢を問わず積極雇用し、当社で各種教育を施していく予定。将来の展開としては、比較的単純な作業はアウトソースせず自社内に持ち、知的障害者本人の雇用を促進していきたい。

- ・社長自ら障害者雇用に対する想いを発信、経営理念への共感も

社長の「いつかやりたい」から「すぐやりたい」へ。

社員を採用する際、創業の想いや理念の共有を図っていたため、はじめることに唐突感がなかった。そもそも事業として、障害がある方向けの保険商品を扱っているため、社内に受け入れやすい環境があった。



障害者雇用までの取組み

現在の主な仕事内容

郵便作業

各部門への郵便物の仕分け、発送作業

資料の丁合

パンフレット等数種類の印刷物を丁合

入力作業

Excelを用いた各種データの入力作業

スキャンング

日々発生する各種書類のデータ化

データの読み取り

スキャンしたデータをOCRでデジタルへ変換、チェック

RPA※の実行

デジタルデータを基幹システムへRPAで転記

※ソフトウェアロボットが自動で実行する業務自動化技術（Robotic Process Automation）

働きやすい環境づくり

・部門横断チームでサポート

所属部門の担当者任せにせず、サポートチームを毎年結成（2014年から開始）、支援機関と連携した定期面談や目標確認面談により、仕事の量・質・幅の拡大を目指し、また困りごとにも対応することで安心感がアップ。

・日々のコミュニケーション

本人の特性や配慮事項については、就労支援センターやご家族とコミュニケーションをとり共有、また社内会議や社内イベントにも積極的に参加してもらい、職場全体でコミュニケーション機会を創出しています。

・モチベーションの維持、向上

自分に合った作業マニュアルを担当者と作成、資格取得を推奨し合格までサポート、職場見学の受け入れや、セミナーに登壇して仕事内容等を自ら説明することで、満足感や達成感を積み上げています。

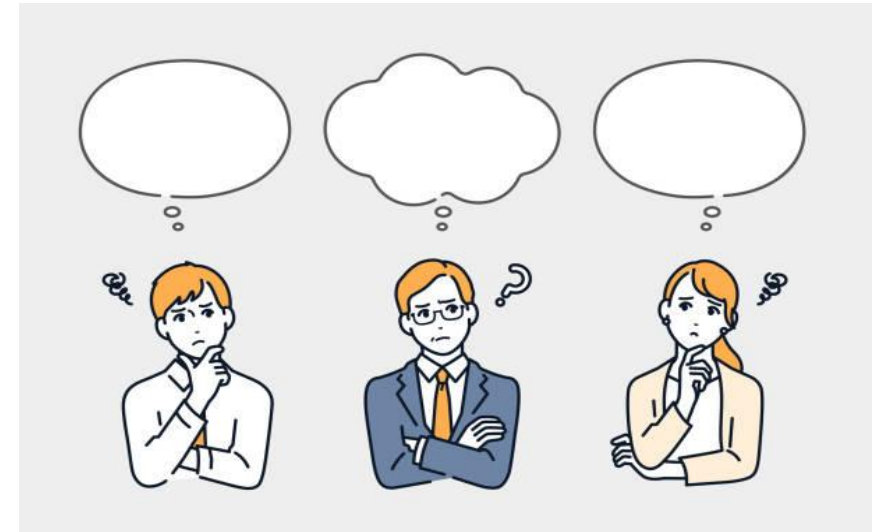


・障害に対する理解の促進

2020年、もにす認定を受けて、体制・仕事・環境づくりを改めて共有、現在、社員2名がジョブコーチ資格を保有、特例子会社への見学や施設等でのボランティア活動を通じて、ともに働くことが当たり前。

現状の課題

- ①特性や強味の可視化ができていない
 - **業務の切り出し**がうまくいかない
- ②評価制度やキャリアパスがない
 - **中長期的な目標**が立てられない
- ③社員の支援スキル向上、負担の緩和
 - **ストレスや疲労**が蓄積する



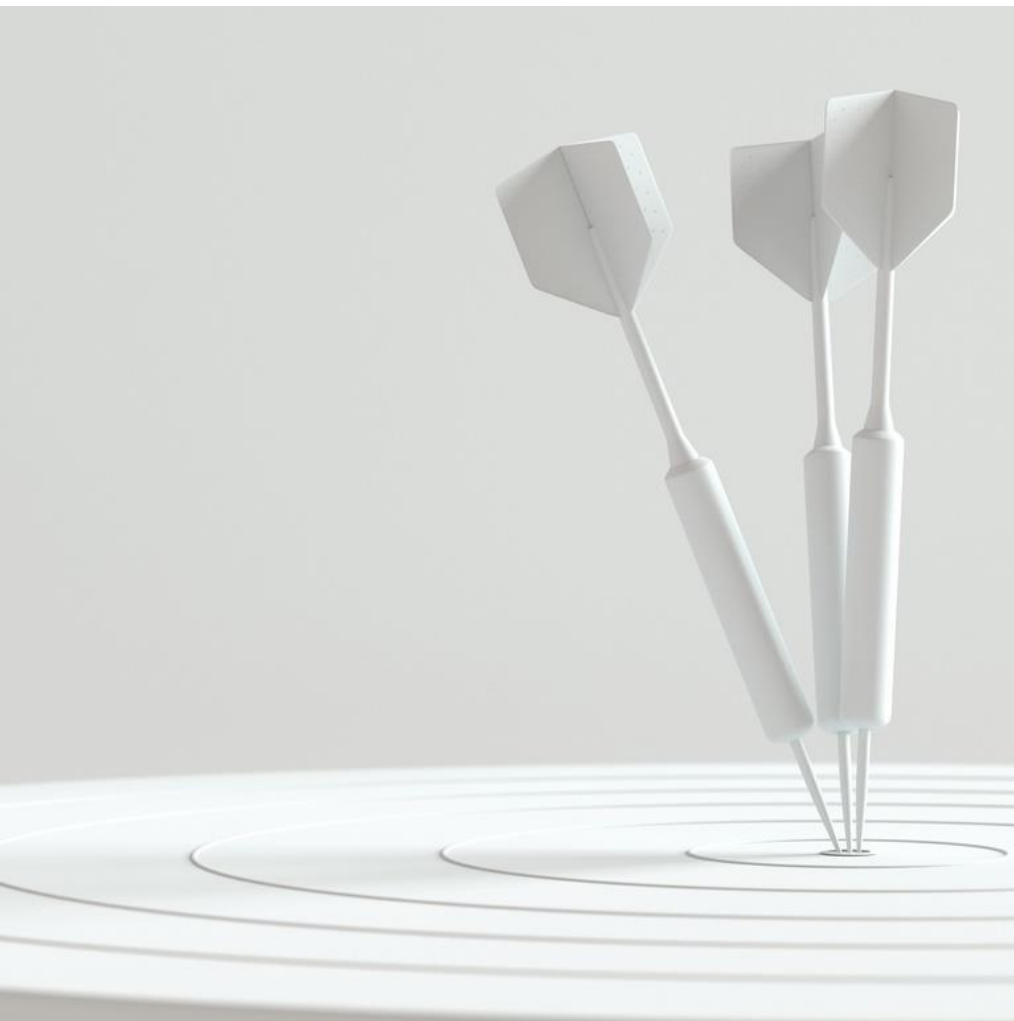
課題の解決に向けて

- ①アセスメントで特性や強味等を可視化
- ②記録を計画的・継続的に残してモニタリング
- ③支援機関等との連携を強化
- ④全社でデジタル化、AI活用を推進



- ・ 相互理解、合理的配慮の検討
- ・ 業務の最適化、キャリアパスの設計
- ・ 役割の分担化、支援スキルの向上
- ・ 支援する社員に余裕が生まれる





ありがとうございました

今後ともご指導、ご協力よろしくお願いします。